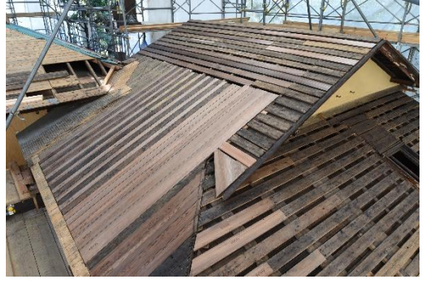
国宝 如庵
重要文化財 旧正伝院書院
建造物保存修理事業

名古屋鉄道株式会社
公益財団法人明治村
名鉄不動産株式会社



③こけらの葺き直し ← ②蒸れ腐れていた野地板を取替え ← ①こけら葺解体 **如庵**

②銅板の葺き直し（野地板は健全だった） ← ①銅板葺解体 **旧正伝院書院**

木部補修　既存樹脂の劣化が軽度であったため、表層を削って木目を彫った後、補色した。

樹皮補填　皮付の赤松の桁は、経年の風合を残しながら、剥落部分に樹皮を補填した。

これまでの工事経過

保存修理工事は、二〇一九年三月に着工し、五月までに仮設工事として、敷地整備、素屋根建設、仮設事務所・保存小屋等の設置を行った。

素屋根建設後より、順次解体工事に着手。棟瓦は基本的に既存のものを補修再用するため、番付を付して丁寧に解体した。

屋根葺材は、葺替えとなるため、破損・仕様調査後に解体した。

屋根下地である野地板の状態は、如庵で蒸れ腐れを確認したため、一部の板を取替えた。一方、旧正伝院書院は健全であった。

屋根葺替えは二〇二〇年春頃にこけら葺、夏頃に銅板葺が完了し、補修した棟瓦も復旧した。

移築時に木部の補修で用いられた樹脂は、まず旧正伝院書院の柱・垂木を中心に修理した。

劣化の程度は想定より軽く、表層を削り取ると、依然健全な状態であった。そのため、新たな樹脂の補填は、虫孔などへの最小限に留め、補修の大半は、既存樹脂に木目を彫って補色とした。

如庵の木部補修では右記の方法に加え、黒木（皮付きの部材）について、剥落した樹皮を補填した。

耐震補強工事は、旧正伝院書院の剛性を高めるために、小屋組及び床組を補強した。

現在は、旧紙を参考に復原した襖紙を張り込む経師工事、傷がついたり経年で部分的に剥落した土壁を補修する左官工事を進めている。

＊当事業は国庫補助金及び愛知県文化財保存事業費補助金を活用し、実施しております。

修理現場から 文化力 POWER OF CULTURE

有楽苑配置図

旧正伝院書院

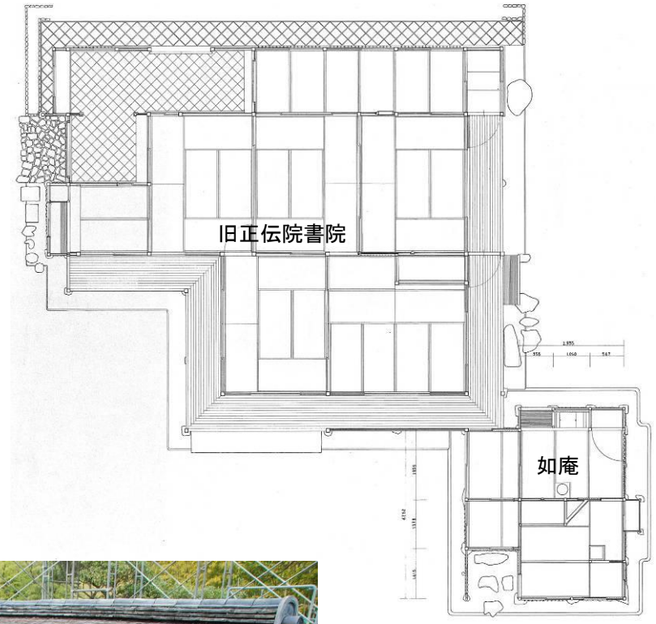
上ノ間（次ノ間よりみる。右奥に如庵）

外観

旧正伝院書院

七畳（床付）、六畳四室、西二畳流し付属、北側長六畳、東側及び南側榑縁付属、北西部分にL形の四半敷の土間を設け、北及び西に扉を設ける、西面北端に小さな待合を設置する。一重、入母屋造、西玄関部分寄棟造、北面庇、銅板葺。

書院は客殿の北側に建てられた有楽の隠居所である。北の出入口は、軒先を唐破風のように起らせている。上段の間は床だけで、違棚・付書院もない作りで、これの北六畳は幕板だけを付けた織部床とし、有楽の部屋と考えられる。内部の襖絵は長谷川等伯・狩野山雪等によるものである。くれ縁の板材の一部には天井板に使用する笹杢材を小割にして使用している。



旧正伝院書院　上：屋根銅板葺　下：過去の樹脂修理の劣化状況

如庵　上：屋根こけら葺　下：棟瓦の亀裂

事業概要

修理方針

屋根葺替及び部分修理
耐震補強

事業期間

二〇一八年十一月
～二〇二一年九月
（三十五ヶ月）

如庵・旧正伝院書院は昭和四十七年の移築より五十年近くが経過し、屋根の破損（如庵はこけら葺 ⇒前回修理平成十二年）、旧正伝院書院は銅板葺）が進行している。
また、移築時に木部の補修で使用された樹脂には、白化・断紋がみられ、柱等の虫害も進行している。

・仮設工事
素屋根建設、仮設事務所・保存小屋設置
・屋根工事
こけら葺・銅板葺の葺替え
・左官工事
土壁破損部の補修
・建具工事
建付調整、襖・障子張替え、一部襖紙復原
・木部補修
補色、樹脂補填、樹皮補填
・耐震補強工事

如庵

建物沿革

国宝如庵および重要文化財旧正伝院書院は、日本庭園有楽苑内に建つ茶室及び書院建築である。織田信長の実弟織田有楽によって、江戸時代前期（元和四年＝一六一八頃）に京都建仁寺正伝院より土地を借用して建てられた。

その後、明治五年に上地され、建物は有楽館として宴集の場所として使用されていた。

明治四十一年に三井家に売却され、東京今井町の三井本邸移築（一回目）され、さらに昭和十二年に大磯三井別邸に移築（二回目）された。

昭和四十七年（一九七二）に名古屋鉄道株式会社の所有となり、現在地に移築（三回目）された。

建物概要

如庵

茶室二畳半台目、水屋の間三畳、廊下の間より成る、一重、南側入母屋造、北側切妻造、北面庇、こけら葺、東側に洞庫の突出部が付属する。

この建物は織田有楽が晩年に建てた茶席である。特徴的な平面・しつらえにより、江戸時代より有名な茶席である。

特徴は、
一、土庇を設け、西より入り、直接入口を見せない。
二、刀掛を作らず廊下の間に置く。
三、床脇に三角形の鱗板を入れる。
四、中柱横には一枚板を入れ、花頭口をあける。
五、腰貼りに古暦を使用する。
六、東側の窓外は竹の詰打とする（有楽窓）。

中柱と花頭口

床脇の鱗板

外観

有楽窓

腰張（古暦）

洞庫（室外側）

洞庫（室内側）

扈従の間